

慢性期成人看護学実習	3年・後期	3単位 135時間	教授 片貝智恵 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310733

1. 授業のねらい・概要

学生が実習病院で患者を受け持ち、看護過程を展開し実践する能力を養う。

具体的には、慢性的な経過あるいは、ADLに障害をきたすような状態にある対象と家族の身体的、精神的、社会的側面の特徴を理解し、対象のニーズを満たし、QOLを向上させるための、セルフケア、ソーシャルサポートに関しての看護ケア実践能力を修得する。

2. 学修の到達目標

1. 成人期の対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に考察できる。(D-2)
2. 慢性期の患者の健康上の問題に対して、対象に応じた援助を計画、実施、評価できる。(D-2)
3. 患者および家族との人間関係の成立と維持に必要な方法を習得できる。(D-2)
4. 慢性期患者および障害とともに生きる人の権利擁護や倫理的配慮について説明できる。(D-1)
5. 保健医療チームの一員であることを自覚し、責任ある行動ができる。(D-3)
6. 主体的にカンファレンスに参加することができる。(D-3)

3. 授業の進め方

実習病院において学生は患者を受け持って実習を行う。

受け持ち患者は基本的に、実習病棟学生指導担当者と教員の協議によって選定される。

患者の承諾が得られた後、教員と学生が話し合い、最終的に受け持ち患者を決定し、看護過程・看護実践を展開する。

アクティブ・ラーニング型科目（実習）である。

ICTは活用しない。

4. 授業計画（実習/実技）

1. 実習期間：3年後期の3週間
2. 実習施設：伊勢崎市民病院 済生会前橋病院 前橋赤十字病院，美原記念病院
3. 実習内容：健康障害をもつ慢性期の患者1～2名を受け持ち、看護過程に沿った看護の展開および基礎看護技術を実践する。
4. 方法その他詳細は看護学実習要項を参照のこと。
5. 担当教員：本吉美也子，片貝智恵，千木良悦子，石井みゆき，他

5. 成績評価の方法・基準

実習は4/5以上の出席が必要である。

実習全般（課題，実習への取り組み方，実習内容，実習記録）80%，知識評価筆記試験10%，知識評価実技試験10%で

総合的に評価する。

ただし，実習全般と知識評価試験（筆記，実技）は，それぞれ60%に達しないと単位認定できない。

成績評価は，「2.学修の到達目標」に示した評価観点ごとに，ルーブリック評価とする。尚，ルーブリック評価に関する詳細は，オリエンテーション内で説明する。

知識評価試験（筆記，実技）は，実習期間前または後に実施する。

知識評価試験（筆記，実技）の出題範囲および出題方法等は，事前に口頭または掲示で提示する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：必要に応じて適宜指示するが，実習に関連する内容のものを，既購入済のテキストから各自選択し活用すること。

参考文献：必要に応じて適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

成人看護学領域の授業，看護過程および基礎看護技術を復習し実習に臨むこと。

基礎看護技術は，安全に安楽に配慮し確実に実施できるように練習すること。

指示された事前学習についてまとめ，内容や注意点，手順などを口頭で解答できるように学習しておくこと。

事前学習が不十分な場合は実習に参加できない場合がある。

実習中は毎日，予習・復習を最低1時間以上行うこと。

8. 受講上の留意事項

主体的，意欲的な実習への参加が重要である。

遅刻，欠席および実習にふさわしくない行動は，参加態度として評価対象とするので注意すること。

先修科目は，がん看護，成人看護学援助技術，成人看護学看護過程論，看護倫理，チーム医療論である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

指示した課題は実習担当教員が内容をチェックして返却する。

内容の不備なものは再提出を求める。

実習全般に関することは，実習中に随時口頭で説明する。

知識評価試験終了後，口頭，掲示またはメールで説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

担当教員は医療機関における看護師としての実務経験を活かして，実習指導を行う。